

第26回テクノフォーラム・木更津高専COC+シンポジウム

日時 平成29年1月31日(四) 14:45~17:10

場所 木更津工業高等専門学校 総合教育棟第1講義室

入場
無料

講演1

低成長・少子高齢化社会に 対応する音楽のイノベーション

～ハイブリッド・オーケストラと
タテ線譜がひらく新時代～

少子高齢化・人口減少によって地方が疲弊する一方、デジタル音楽配信の普及で、売れる音楽と売れない音楽との格差が拡大しています。名曲や童謡など文化的共有財産としての音楽がこのような時代に適合し、さらに新しい価値へ発展し得る2つのイノベーションについて説明します。

これまで高齢者福祉における音楽サービスと言えば、一方的に聴かせるだけか、手拍子や簡単な打楽器を叩くだけの名ばかりの参加でした。「タテ線譜」は初心者にも演奏参加を可能にする画期的なメソッドであり、奏者の演奏に追従する自動伴奏システム「ユリディス」の導入により、豊かな伴奏をつけられます。また、財政基盤が弱く、オーケストラの経営が難しい地方においても、伝統楽器(アコースティック楽器)と電子楽器が共演する新しい演奏スタイル「ハイブリッド・オーケストラ」は都市部並みの文化的環境を担保し得る可能性をもっています。

講師

アジア・パシフィック
電子キーボード協会代表

阿方 俊 あがた すくろ



講師プロフィール

- 1935年 静岡県に生まれる
- 1958年 愛媛大学農学部卒業。
- 1965年 東京学芸大学専攻科音楽学修了
- 1969年 日本楽器(現、ヤマハ株式会社)入社。ヤマハ音楽振興会音楽ディレクターとして国内、アメリカ、ドイツでヤマハ音楽教室を展開
- 1986年 帰国後、全日本電子楽器教育研究会を立ち上げ、事務局長として日本各地の音楽大学での電子オルガン科の設置およびクラシック音楽界での電子オルガン活用に貢献
- 1998～2007年 昭和音楽大学電子オルガンコース非常勤講師
- 2004～2016年 日本電子キーボード音楽学会立ち上げ、事務局長として尽力
- 2010年 NPO法人APEKA(アジア・パシフィック電子キーボード協会)代表
- 2010年 昭和音楽大学生涯教育センターでタテ線譜による講座を開始
- 2016年 平成音楽大学ミュージックアドバイザー

講演2

奈良高専の挑戦! 地域貢献から 地方創生へのギアチェンジ

～奈良高専における地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業(COC+)の紹介～

地方創生が謳われる時代、地域産業の振興への協力、地域への優れた人材の供給など教育機関にも、今まで以上に地域との関わりが求められています。奈良高専は、COC+事業に平成27年度より参加し、地域共創研究センターTOMOの設置、地域創生マインド養成教育プログラムの開始など、地域創生への本格的な活動を開始しました。これまでの取組の成果と課題について発表させていただきます。

講師

奈良工業高等専門学校
電気工学科 教授・専攻科長

藤田 直幸 ふじた なおゆき

講師プロフィール

- 豊橋技術科学大学大学院修士課程修了、松下電器産業入社、大阪府立高専講師、助教授、奈良高専電気工学科准教授を経て、2008年より現職。2015年より専攻科長、COC+実施責任者。これまでに、国立高等専門学校機構男女共同参画推進室室長特別補佐、同教育研究調査室併任教授、豊橋技術科学大学客員教授、電気学会男女共同参画推進委員、同調査専門委員、表面技術協会理事、日本磁気学会企画委員、電気鍍金研究会理事などを務める。著書に『ナノ構造磁性体』(共著)、『次世代めっき技術』(共著)がある。